

# 実習スーパービジョン論演習

社会福祉士実習指導者講習会

(5時間)

主催：一般社団法人 沖縄県社会福祉士会

協力：一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟

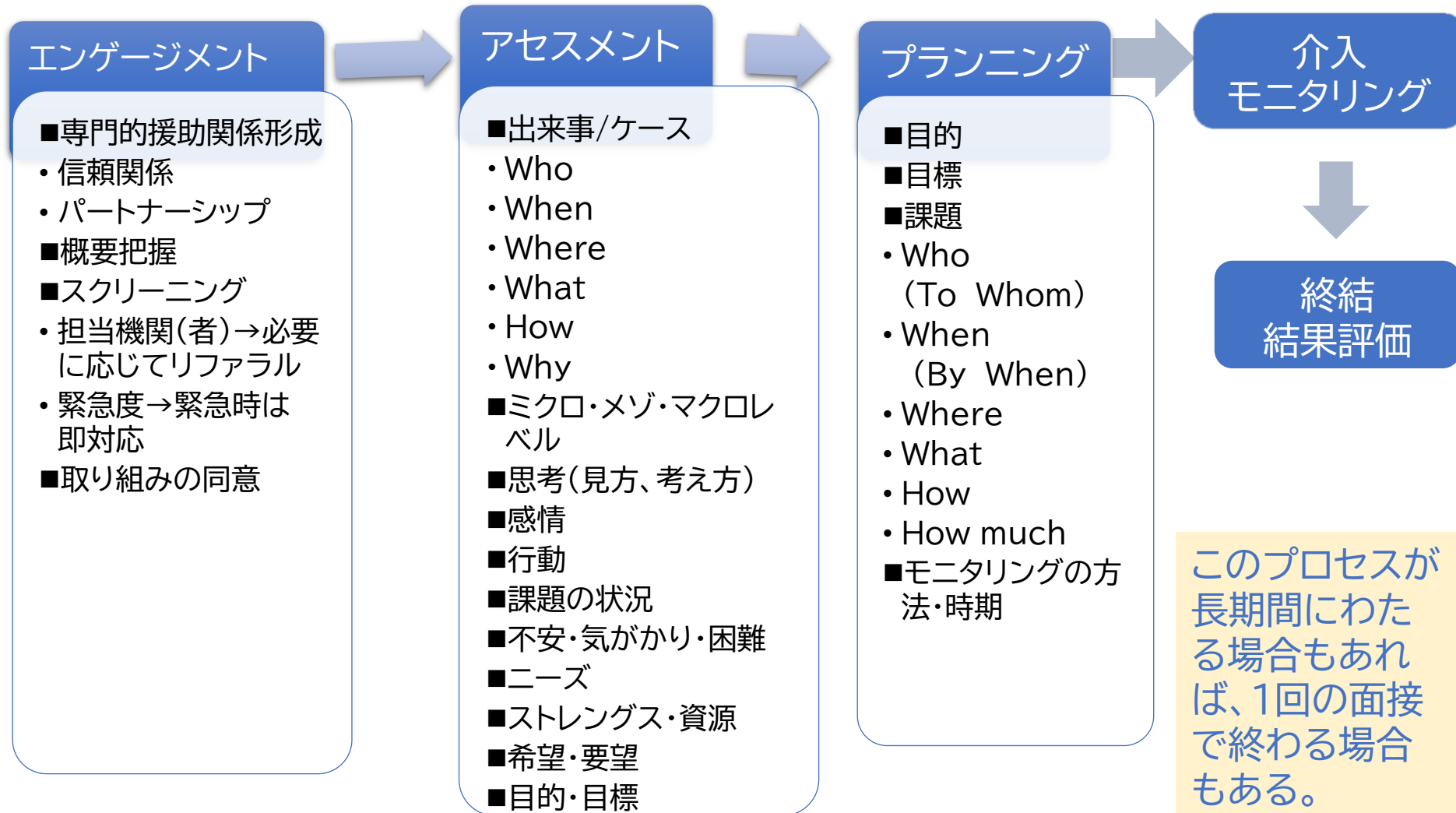
# 演習のスケジュール

内容	時間
演習の説明・アイスブレイク	(20分)
演習1 実習生に適切に関わる:エンゲージメント	(80分)
演習2 実習生の学びを支える:アセスメント	(80分)
演習3 実習生の倫理的ジレンマに対応する:プランニング・介入	(80分)
まとめ	(40分)

# 演習(実習指導者)のポイント(10分)

1. この演習は、現場実習中に実習指導者が行うSVについて焦点を当てています。
2. この演習のねらいは、①実習生に適切に関わること、②実習生の学びを支えること、③SVの展開を意識して、プランニングと介入を理解することです。
3. ここでは、実習SVのプロセスに基づいて、3つの演習を行います。  
「実習生に適切に関わること(エンゲージメント)」(演習1)→「実習生の学びを支えること(アセスメント)」(演習2)→「実習生の倫理的ジレンマに対応する(プランニング・介入)」(演習3)という流れで進みます。
4. 多様な方々の多様な考えを共有をできるように、お互いに学び合いましょう。  
\*ブレインストーミング式:批判厳禁、自由奔放、便乗発展、量を好む

# ソーシャルワークのプロセス



# 演習 アイスブレイク(10分)

- ①自己紹介+「実習指導者として学びたいこと・不安なこと」(8分)
- ②このあと演習を3つ行います。それぞれの進行係とプレゼン係を決めてください。(2分)

# 演習1 実習生に適切に関わる(エンゲージメント) (80分)

## <演習の説明>(5分)

実習生:Aさん

実習先:ロールプレイで実習生役  
をする人の職場

1か所目の実習

(場面:事前訪問の受け入れ)

Aさんは、大学2年生です。社会福祉士の1か所目実習を春休みに行うため、実習開始の1か月前に事前訪問のために来所しました。

初めての实習ということで、やや緊張している様子がうかがえます。簡単に挨拶を交わした後、面接室にて個別面談を実施しました。

## ①個人ワーク(5分)

### ● 演習課題

- 実習生はなぜ緊張しているのか?実習生の気持ちを想像してください。
- スーパーバイザーとしてどのような関りから始めますか?

## <グループ>

## ②設定の共有。役の順番を決める。(10分)

3~4人グループで、次の役を交代してすべて行う。

A 実習生

B 実習指導者

C 観察者(タイムキーパー)

D 観察者2 ※4人グループの場合

## ③ロールプレイ(20分)

1回5分×4回

## ④グループで振り返り(10分)

この時間に発表の準備をしてください。

## <全体>

## ⑤全体共有と解説(30分)

# 演習1 全体共有と解説(30分)

◆グループごとに発表(3つのグループを指定)

振り返りの内容

# 社会福祉士の倫理綱領(抜粋)

(日本ソーシャルワーカー連盟:日本社会福祉士会、日本精神保健福祉士協会、日本医療ソーシャルワーカー協会、日本ソーシャルワーカー協会を会員とする団体)

## 原理

- I 人間の尊厳
- II 人権
- III 社会正義
- IV 集団的責任
- V 多様性の尊重
- VI 全人的存在

## 倫理基準

- I クライアントに対する倫理責任
- II 組織・職場に対する倫理責任
- III 社会に対する倫理責任
- IV 専門職としての倫理責任



# 適切な関わりのため

## バイステックの7原則

1. クライアントを個人として捉える(個別化)
2. クライアントの感情表現を大切にす(意図的な感情の表出)
3. 援助者は自分の感情を自覚して吟味する(統制された情緒的関与)
4. 受け止める(受容)
5. クライアントを一方向的に非難しない(非審判的態度)
6. クライアントの自己決定を促して尊重する(クライアントの自己決定)
7. 秘密を保持して信頼感を醸成する(秘密保持)

(バイステック著/尾崎新ら訳, 2006)

## スーパーバイザーに求められる資質

1. 理論的な概念を検討し様々な介入方法を選ぶ際の柔軟性
2. 同じ状況を様々な角度から見ることができる多角的な視点
3. 専門職とオリエンテーションについての知識
4. 文化を超えて働く能力
5. 自分自身およびスーパーバイザーの不安とつきあい持ちこたえる力
6. スーパーバイザーと新たに起こる状況から学習しようとするオープンさ
7. スーパービジョンプロセスに影響するような、幅広い状況での課題に敏感であること
8. 抑圧的ではない方法でパワーを適切に取り扱えること
9. ユーモアのセンス、謙虚さ、忍耐力

(Hawkins & Shoet, 2012)

# コミュニケーション・スキル

- 面接の時間や場所:現実的、安全、安心
- 非言語的コミュニケーション:表情、視線、位置と距離、姿勢、身振り・手振り、言葉使いや語調、メモ、沈黙
- 言語的コミュニケーション:話を促す(あいづち、繰り返す)、面接を深める・進める(質問する、言い換える、要約する)、感情をつかんで応答する(共感を示す)

(竹中,2021)

# 演習2 実習生の学びを支える(アセスメント) (80分)

## <演習の説明>(5分)

実習生: Bさん

実習先: ロールプレイで実習生役をする人の職場

(場面: 実習中期)

Bさんは、実習中期に入り、特定のクライアントに対するアセスメントの実施と支援計画の作成を課題として取り組んでいる。

夕方、一日の振り返りの時間に、実習生に対して進捗状況についてたずねたところ、次のような発言があった。

「Cさんの支援計画の作成をしなくてはならないのですが、とても困っています」

\*すでにエンゲージメントができているという前提なので、直接アセスメントの仕方から検討する。

## ①個人ワーク(5分)

### ● 演習課題

- 実習生がなぜ「とても困った」と言っているのか想像してください。
- スーパーバイザーとして何をしますか？
- 具体的にどのように対応しますか？

## <グループ>

## ②設定の共有。役の順番を決める。(10分)

3~4人グループで、次の役を交代してすべて行う。

- A 実習生
- B 実習指導者
- C 観察者(タイムキーパー)
- D 観察者2 ※4人グループの場合

## ③ロールプレイ(20分)

1回5分×4回 ※3人グループの場合は3回で終了

## ④グループで振り返り(10分)

この時間に発表の準備をしてください。

## <全体>

## ⑤全体共有と解説(30分)

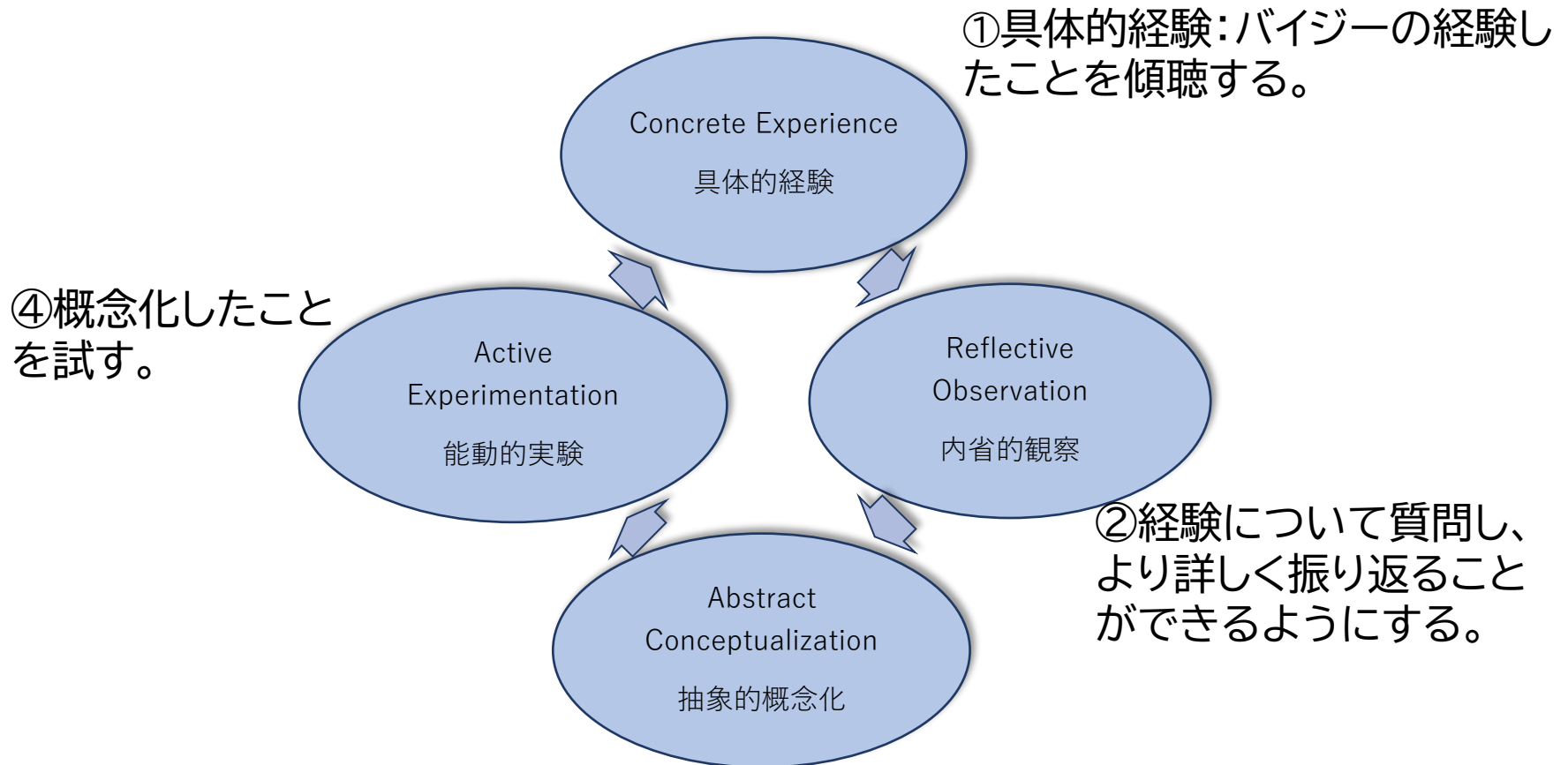
# 演習2 全体共有と解説(30分)

◆グループごとに発表(3つのグループを指定)

振り返ったこと

# コルブの経験学習モデル

(Kolb, 2015)を応用したスーパービジョン



① 具体的経験: バイジーの経験したことを傾聴する。

② 経験について質問し、より詳しく振り返ることができるようにする。

③ 抽象的概念化: 経験を通して、他の場面でも活用できることを考える。

④ 概念化したことを試す。

# 演習3 実習生の倫理的ジレンマに対応する (プランニング・介入) (80分)

## <演習の説明>(5分)

実習生(実習生):Cさん

実習先:児童養護施設

(インシデント:実習終了4日前 振り返り時間)

実習終了日まであと4日となった日の振り返りの時間が終わりかけていた。そのときに実習生が小さな声で途切れ途切れに話し始めた。

「どう相談するか迷う」とやっと切り出し、「実は小学5年生のDさんは園から渡されているお小遣いで中学生の入所児Eさんに頼まれたものを買って、渡している。『プレゼントなの。秘密だけどCさんには教えてあげる。』と言われた。秘密と言われて、引っかかっている。」ということであった。「Dさんは自分に段々と話をしてくれるようになって嬉しく思っているのに、気持ちを裏切ることになる恐れがある、中高生の入所児はなかなか話ができず関わるのが難しく、怖いと思っている」と語られた。

なお、本園では子ども間での物のやり取りを園で制限しているとオリエンテーションで説明を受けている。

## ①グループワーク(40分)

### 演習課題

- この後、具体的にどう対応するか？
- SVの実施計画を3つの側面からたてる。
- その際、SVのどの機能を活用するかについても検討する。
- 実施計画のポイント
  - 実習生の倫理的ジレンマの状況確認、実習生の自己覚知を促す
  - 実習生がクライアントの理解や適切な援助の対応、クライアントの最善の利益を検討できるよう促す
  - 実習生が継続して学ぶことができることの保障、クライアントの理解や適切な援助にむけた対応、実習指導者の働きかけ

※SVの実施計画シートを使用する。この時間に発表の準備をしてください。

## ②全体共有と解説(35分)

# SVの実施計画シート

グループメンバー氏名:

<p>①実習生の倫理的ジレンマの状況確認、実習生の自己覚知を促す</p>	<p>具体的にどう対応するか(SVの機能も検討する)</p>
<p>②実習生がクライアントの理解や適切な援助の対応、クライアントの最善の利益を検討できるよう促す</p>	<p>具体的にどう対応するか(SVの機能も検討する)</p>
<p>③実習生が継続して学ぶことができることの保障、クライアントへの適切な援助にむけた対応、実習指導者の働きかけ</p>	<p>具体的にどう対応するか(SVの機能も検討する)</p>

# SVの実施計画シート 各項目の検討ポイント(参考例)

<p>①実習生の倫理的ジレンマの状況確認、実習生の自己覚知を促す</p>	<p>具体的にどう対応するか(SVの機能も検討する)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 実習生が不安や圧力を感じることなく、状況を確認できるように促す。</li><li>・ 実習生の投げかけは大事なこととして、評価できることも伝える。</li><li>・ 児童とどのような関係形成ができていると考えているか、言語化を促す。</li><li>・ 倫理的ジレンマが生じていることを自己覚知できるように促す、など。</li></ul>
<p>②実習生がクライアントの理解や適切な援助の対応、クライアントの最善の利益を検討できるよう促す</p>	<p>具体的にどう対応するか(SVの機能も検討する)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 実習生がソーシャルワークの原理や倫理的根拠の上に、クライアントや援助ニーズ、施設の目的や職員の役割を具体的に理解し、実践すべきことを検討できるよう問いかけや確認の投げかけをする。</li></ul>
<p>③実習生が継続して学ぶことができることの保障、クライアントへの適切な援助にむけた対応、実習指導者の働きかけ</p>	<p>具体的にどう対応するか(SVの機能も検討する)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 実習生の状況を把握、理解した上で、実習において、安全に安心して行う実践内容や働きかける対象、環境を確認し、必要な調整を図る。</li><li>・ 他職員との連携、心配されるリスクに対する特別な配慮も検討する。</li><li>・ 必要に応じて、養成校の指導との連携についても確認、調整を行う。</li></ul>



# 演習3 全体共有と解説(25分)

◆グループごとに発表(3つのグループを指定)

\*すでに発表したグループの内容と重なっていない点について発表

実施計画シートの共有

# まとめ(40分)

◎演習の振り返りと今後の課題の確認の方法について(5分)

1. 「演習のねらい」に対する自己評価をしてください(5分)

①実習生に適切に関わること

②実習生の学びを支えること

③SVの展開を意識して、プランニングと介入を理解すること

2. アクションプランの作成: SW実習SVにおける実習指導者として、今後の自分自身に取り組むべき課題は何か(5分)

3. グループ内での学びの共有(10分)

4. 講師総括(15分)

# 引用文献

- Bandura, A. (1985). *Social Foundations of Thought and Action: A Social Cognitive Theory*. Prentice Hall.
- Hawkins, P. & Shohet, R. (2012). *Supervision in the helping professions (4<sup>th</sup> ed.)* Open University Press.
- Kadushin, A. & Harkness, D.H. (2014). *Supervision in Social Work (5<sup>th</sup> ed.)*. Columbia University Press)
- F.Pバティスト著 尾崎新・福田俊子・原田和幸訳(2006)『ケースワークの原則[新訳改訂版]:援助関係を形成する技法』誠信書房
- 竹中麻由美(2021)「ソーシャルワークの面接」日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『ソーシャルワークの理論と方法』中央法規
- 日本ソーシャルワーク教育学校連盟(2021)「『新たな社会福祉士養成カリキュラムにおける教員研究のあり方に関する調査研究事業』実施報告書
- 一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集(2021)『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 11 ソーシャルワークの基盤と専門職』中央法規出版
- 一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集(2021)『最新 社会福祉士養成講座 8 ソーシャルワーク実習指導 ソーシャルワーク実習』中央法規出版